

知識情報システム

知識科学

情報経営・図書館

研究室紹介

知識情報・図書館学類誌

知
識
情
報
学
類
誌

Extra
特別号
2016.10

研究室紹介号

2016年度 研究室紹介号

知識科学主専攻

後藤嘉宏研究室	-02
辻慶太研究室	-03
照山絢子研究室	-04
歳森敦研究室	-05
真栄城哲也研究室	-06
横山幹子研究室	-07

知識情報システム主専攻

阪口哲男研究室	-08
宇陀松村研究室	-09
佐藤哲司研究室	-11
鈴木伸崇研究室	-12
関洋平研究室	-13
高久雅生研究室	-14
手塚太郎研究室	-15
Eduard BARYSHEV 研究室	-16
緑川信之研究室	-17
若林啓研究室	-18

情報資源経営主専攻

石江夏生利研究室	-19
逸村裕研究室	-20
小泉公乃研究室	-21
鈴木佳苗研究室	-22
Patrick LO 研究室	-23
原淳之研究室	-24
平久江祐司研究室	-25
松本浩一研究室	-26
村井麻衣子研究室	-27
吉田右子研究室	-28

(敬称略)

※執筆を承諾していただいた先生方だけの掲載となります。学生を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。

「なぜ」という根本的問いを立てる力を

——後藤＝ホワイト(希望)＝嘉宏ゼミによるこそ

老眼か？

そもそも自分は遅読だ。だが最近、本を読むスピードが日増しに遅くなってきている。「老眼が進行しているのか？」うん。そのことを否定はしない。だけど著名な研究者の代表作でも突っ込みどころ満載に思えてくる。爺になればなるほど、参照する頭のなかの知識や体系が増えてくる。すると、ますます遅くなる。

ブラックゼミとの評判

「そんな大家に対する突っ込みを学部3年生に対してするんだ。後藤ゼミは長くなるという噂もほんとうなんだな」。そう思われる向きもあるでしょう。

でも私だって分別ある大人です。プロボクサーが素手で素人と喧嘩したら、凶器をもって闘ったとみなされ、起訴されます。突っ込みに必要な考え方は意外と限られたもの。基本的突っ込みを、私が皆さんの研究テーマに対して投げかける、これが最初の2~3ヶ月です。例年は1回75分、2名発表で順調に流れます。

では、後藤ゼミはホワイトでしょうか？

残念ながら、それは違います。高齢者後藤はホワイトを望むのに許されない。なぜ？からくりは簡単。

突っ込みを入れる私を皆さんが真似てくるのです。

皆さんが4年生に上がる頃には、私がほとんど喋らない日であっても、ゼミは盛り上がります。

また院生の参加する機会も多く設けます。若い院生は緩い私と違い、容赦なく突っ込みを入れてきます。

岡目八目

後藤ゼミに入ると、**批判力の向上**は、間違いなく期待できます。批判力は**就活**の際も討論する術として十分に力を発揮してくれます。ゼミでしっかりと批判力を開発しているゼミ生は大学院に進むか、人に自慢できる一流の就職先をみつけてきます。

しかし、批判力だけでは、本当は不十分。他人を批判する力はあっても、それを自分への批判にも活かす力はまだ身につけていない。

したがって他人を批判する力が身についたら、つぎにそれと同じことを、自分に対してもするよう促します。促すといっても特効薬はないです。卒業するまでにはそこまでに至らないゼミ生もかなりいます。

でも他人のことはみえているのに、自分のことはみえていない、そういう事例をたくさん、ゼミの現場で知ることができれば、それはそれで充分です。そういう**岡目八目な自分らの状況**を自覚できるだけでも、将来、より一層の成長が期待できます。

求める人材—課題解決能力よりも課題発見能力を

社会学は人間にかかわるあらゆる事象が対象になります。ただし社会学固有の方法というか見方はあります。それは**行為の意味理解**という方法です。

とはいえ、やはり対象は広い。間口が広いだけにしっかりと入ゼミ希望者の適性は見極めたい。それは**課題発見能力**があるか否かということです。「なぜ」という根本的問いを立てる力です。学校秀才の筑波大生は「どのように」という課題解決能力には長けています。しかし得てして、君ら秀才は自分で根本から考える力に欠けます。**行為の意味理解**というのはまさに、人の行為について、「なぜ」を問いかけることです。

「なぜ」は自分で考え出すことです。しかもこの根本的問いを立てる力そのものは、我がゼミでも養われません。普段から**子どもの眼**、あるいは**外国人の眼**を自分のなかにもって、周囲の人びとや社会を眺めるように習慣づけていくことで生まれてきます。

とはいえ課題発見だけに留まっても困ります。つぎにはそれを本当に実現できるか、そこも問われます。そこでは「なぜ」よりも「どのように」という面が強くなります。面白くてもどう考えても実現不可能なテーマでは、受け入れは無理です。でも多少実現の可能性がみえてさえいれば、ゼミの討論という共同作業のなかで実現できます。

面白い「なぜ」をぜひ、みつけ出してください。みつけたら、後藤ゼミの門「も」ぜひ、叩いてみてください。

【研究分野】社会学・社会思想史・・・人に関わることであれば何であれ、**行為の意味理解**という観点で研究する限り、分野的にはOK。

【現在の学生人数】博士課程2、修士課程1、学類4年4

【募集人員】知識科学3名、情報資源経営0~2名

【ゼミの頻度】週1(当初75分か150分。ただし後半はブラック症候群)、他に任意参加の臨時ゼミ。

【年間スケジュール】長期休暇中は休み(ただし中間発表前、院試準備等で臨時ゼミあり、スカイプ・メーリスも多用) / 2週に一度くらい廻る、個人の研究の進捗状況と問題点等の発表とそれを巡る討論。**合宿なし。**

辻慶太研究室

1. ゼミについて

- ▶ ゼミは週 1 回 1～2 時間です。
- ▶ 現在のメンバーは学類生 3 名，博士前期課程生 5 名，後期課程生 2 名，研究生 1 名です。
- ▶ ゼミ部屋は 1 階の 7B140 です。階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力です。

2. 研究テーマ

私はこれまで以下のテーマで論文を書いてきました。見事にバラバラです。大もとに一貫した問題関心があるわけではなく，流行に合わせて楽しそうな研究をしてきました。

- (1) 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定 (2014 年～2015 年)
- (2) 貸出履歴等を情報源とした機械学習による図書推薦システムの開発 (2011 年～2014 年)
- (3) 公共図書館のレファレンスサービスと Q&A サイトの正答率比較 (2009 年～2011 年)
- (4) 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査 (2006 年～2008 年)
- (5) 対訳コーパスを用いた多言語シソーラスの自動構築 (2002 年～2005 年)

卒業研究もやりたいことを自由にやってもらっています。過去と現在の例は以下の通りです。

2016 年度	2015 年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 推理小説における叙述トリックの分類 ・ パスファインダーで紹介されている図書の特徴分析 ・ 海岸での溺水事故の原因に関する計量的研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館における飲食の可否に関する実態調査 ・ 「カリスマ主婦」から見る女性のライフコース選択
2014 年度	現在の大学院生の研究例
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共図書館におけるマンガの所蔵状況 ・ 公共図書館におけるレファレンスブックの所蔵状況 ・ 3 年次編入の有効性に関するアンケート調査 ・ うろ覚え図書の検索に向けた基礎調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Twitter 上の疑問を収集し回答を呼びかけるサイトの構築 ・ 指定管理者制度導入館と直営館のサービス比較 ・ 公共図書館におけるレファレンスブックの所蔵状況 ・ 図書館における飲食の可否に関する実態調査

3. その他

- ▶ 階段を上らなくていいというのが辻研最大の魅力ですが，2 番目の魅力として過去の調査研究で用いた有害図書が読み放題という点が挙げられます。
- ▶ 無数にある辻研の短所の 1 つに「お金がない」という点があります。国際会議でバリバリ発表したい（もちろん人のお金で）という方は他の研究室に行きましょう。



足腰に優しい立地



充実した有害図書

照山研究室

1. 概要

現在のメンバー：4年生5名（内1名休学中）、M1 1名

研究室：7D517（常駐可。ソファー、PC等あります。）

形式：週1回2限連続でゼミをしています。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します）。

連絡先：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々について研究する。（例）図書館、特定の店や寄り合い場、地域の集まり、自助グループ、患者会、社会運動グループなど
- その場所に何度も出向いて、そこの人々とともに時間を過ごし、一緒に活動に参加したりインタビューを実施したりする。
- 彼らとのコミュニケーションの中から、彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

といった研究を扱います。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、さまざまなことに問題意識をもって取り組める学生を募集します！

◆今年の4年生の研究テーマ◆

多摩ニュータウンの少子化 一同級生へのインタビュー調査から—
きょうだいの進路選択と人生 —ライフストーリーに着目して—
地域との関係性から考察する児童センターの社会的役割
適応指導教室職員によるジレンマのとらえ方について

3. ゼミ生からのメッセージ

「未知のフィールドに一人で足を踏み入れる緊張感と、そこでの聞き取り調査を通じて人の考え方や価値観に触れる楽しさがあります。ゼミではみんなで話し合い、理解を深めていきます。」

「ゼミのメンバーの仲がとても良く、ゼミが終わったあとも誰も帰ろうとせず楽しく会話しています。」

「調査で行きづまったり、考えを整理しなくなったときには、皆でアドバイスしあえる良い雰囲気の研究室です！」

「話すことが好きで、時々おせっかい（笑）。だけど何より温かい。そんな人たちが集まった研究室です。」

歳森研究室

指導可能な研究領域



知識や情報の流通・利用に係わるサービスに対する個人の意識や行動を計量的分析

現代を生きる我々は、人から聞く、テレビで見る、新聞で読む、Webで調べるなど、いくつもの方法で情報を得て、知識を獲得します。このような情報源の選択や情報の評価の際における人間の行動と意識を、量的調査と計量的分析から解明していきます。

週1回のゼミで各自が研究テーマ案を発表し、先生やゼミ生とディスカッションする中で研究テーマを着手発表までに決定していきます。歳森研究室では、学生が希望する研究テーマを持ち込んで歳森先生が「おっけー」といえば、なんでも研究できます。持ち込んだ研究テーマがそっくりそのまま採用されることはまれですが、いままでに歳森先生の口から「ぜったいだめ」という言葉は聞いたことがないので、卒業研究として成立するように先生と一緒に考えてくれることでしょ。研究室の雰囲気はとても自由で、ゼミ生は好きな時間に自分がしたいように研究しています。もちろん、飲み会や研究室旅行もあるのでゼミ生同士は仲良しです（きっと）。

「歳森研究室は面談を受けなくてもいいから」という理由で、歳森研究室を希望した人も過去いましたが、研究室の相性は大事なので面談を受けてみることをお勧めします。具体的なテーマや方向性がなくても大丈夫です。好きな映画の話でもしてください。もちろん、ゼミの見学はいつでも受け付けているのでご希望の方は歳森先生にメールしてみてください。

- ◇ E-mail : tosimori@slis.tsukuba.ac.jp
- ◇ 学生研究室 : 7B140
- ◇ ゼミ (2016年度) : 週1回2-3時間
- ◇ 学生 (2016年度) : 学類3人、博士前期課程1人、博士後期課程2人
- ◇ 卒業後の進路 : Accenture、NECソリューションイノベータ、NEC特許技術情報センター、茨城県中学校教員、大学院進学
- ◇ イベント : 飲み会、ゼミ旅行

真栄城研究室

今年の卒業研究生：4人
来年の卒業研究生：不明

研究テーマ

キーワードは、生物、脳、知識です。
脳の活動や、コンピュータを使った生物の研究。
漫才コンテストの予測もやっています。

卒業研究のテーマ

みんな、それぞれ自分の好きなことをやっています。
自分で考えるので、ユニークで面白い研究が多いです。

大体、以下のような手順で決めていきます。

- 1- 定期的に何回か会って、自分で考えたテーマについて相談する。
- 2- 大まかなテーマが決まったら、予備的な調査や実験をする。うまく行きそうだったら、そのテーマをさらに具体的に作る。見込みが低そうだったら、別の実験をするか（「2」を繰り返す）、「1」へ戻る。
- 3- 本格的に進める。

プレゼン

プレゼンテーションは大事です。
卒業研究とは別に、プレゼンテーションの練習をしています。



これまでの学生の研究 いくつかの例です

視聴者と審査員の評価の相違に基づく漫才の面白さの分析

審査員が評価する作品として「面白い」漫才と視聴者が直感的に「面白い」と感じる漫才にはどのような差があるのか？



VOCALOID の人気楽曲の定量的な特徴

人が歌う人気楽曲と VOCALOID の人気楽曲はどのような違いがあるのか？

男脳と女脳、会話との関係性

話の展開は脳の性差に依存するのか？

マンガの「似てる」基準を明らかにする

一見、似ているように見えるマンガでも客観的に違いを検出できる指標は？

称号の認知が仮名型 CMC のコメントの攻撃性にもたらす影響

こんな人、見たことないですか？
現実では優しいのに、ネットでは攻撃的
匿名性を損なわずに攻撃性を抑制できないか？

サッカーの新たな評価基準を作る

アマチュアのレベル向上。トレーニングの質向上。

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ①主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。たとえば、公案解釈に、ポール・グライスの会話の理論を使う。
言霊信仰が非合理的ではないというために、オースティンの言語行為論を使う。
- ②哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。たとえば、「心の性質や構造等はすべて物理学で説明できる」と考えることについて「思考実験」は、哲学の研究方法として適切なのか。

現在のゼミの概要

現在のメンバー：4年生4名

研究室（7D543：後藤研と共有）

長期休暇の例外を除き、週1回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の1週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2時間から3時間です。一人一人が1週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3年生の内にテーマを絞り、4年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

2016年度ゼミ生（4年生）の現時点での研究課題

- 「科学的实在論から見た超心理学研究に於ける实在に関する考察」
- 「哲学教育の在り方について：教養主義を振り返って」
- 「コネクショニズムと唯識論の比較」
- 「虚構からの知識獲得に対する検討：ライアンの虚構論を手がかりに」

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人、国立大学の図書館員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、故郷の金融機関に就職した人、某大手パン屋に就職した人、人材派遣会社に就職した人、本当にさまざまです。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に付けていただければと思っています。

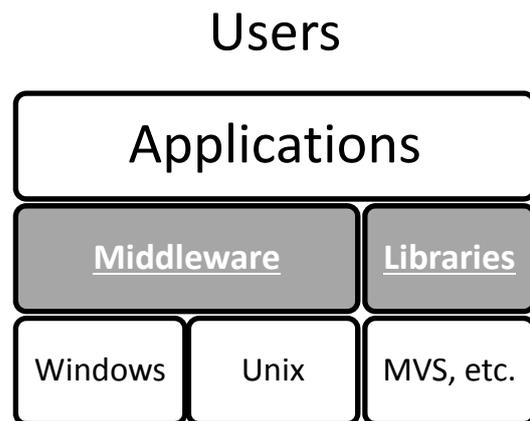
興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

阪口研究室とは？

～快適な情報共有・伝達基盤を求めて～

どんなことをやるのか？

- 情報共有・伝達基盤技術を対象に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う(大目標)
 - そのために様々なアプリケーションシステムが構築されている
 - 「快適」には「安全」や「安心」も含まれる
- その構築を支える技術の開発が元々の目的
 - アプリケーション構築で使うライブラリやミドルウェアのデザインと実装・検証
 - 例題としての構築そのものも対象にする
- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！



グレーの部分が本来の目標

現在の主だったテーマ類(他研究室と共同のものもあり)

- Linked (Open) Dataの提供元発見と検索
- マイクロタスク型Crowdsourcingプラットフォームの開発
Crowd4U/FusionCOMPプロジェクトの一環
(これまでのテーマ例は下記Webページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学、ハードウェア、ネットワーク全7層、OSからアプリ、図書館学を学んだ指導教員によるアドバイス有：-)

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <http://www.sakalab.org/>

(3年生向けページはここからリンクします)

Eメール: saka あつと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312 (普段は下記の共同研究室にいます)

共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン3階)



宇陀則彦・松村敦研究室紹介（用語集）

赤ペン先生

とある OB の別名。夜な夜なふらっと研究室に現れては卒研に迷う子羊の相談にのったり、卒業論文に赤を入れてくれたりする。長谷川先生と混同してはいけない。

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいる？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。

浮かれポンチ

合宿前日に Twitter で浮かれまくっている様子。一番の浮かれポンチは〇〇だのように使う。

うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

うどん

松村先生の好物。つくばにはいいうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。東京授業の日に、こくわがたに寄るのが楽しみ。

エイリアン

共同研究室にある PC。長らく愛用されてきたが、今年の 4 月、宇宙に帰った。

絵本

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウェルカム！

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オープンラボ

毎年 10 月の研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが後輩に直接研究室の説明をする。3 年生だけでなく、2 年生や 1 年生も来てかまわない。

おりがみ

松村先生が藤本修三氏を師と仰ぎつつ日々技を磨いている。ポケモン GO で言うとレベル 20 くらい。最近のお気に入りにはキャンディーで、忙しければ 1 日 1 個は作っている。共同研究室の木の本棚がギャラリー。

俺の屍をこえていけ

3 月に開かれる反省会のこと。卒業研究を終えた 4 年生が新しく研究室に配属された 3 年生に向かって、卒業研究で失敗したことを話し、「俺のような屍になるな」という心の叫びを表明する会。

近未来シリーズ

学園祭で出展する企画名のこと。グランプリを 3 度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この 1 週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。最近は、リア充ネタが多いことが問題となっている。

真の終電

つくば～柏の本当の終電のこと。松村先生が TX 通勤 7 年目の秋、パパ友の一言でそれまでの終電の概念が覆され「真の終電」が生まれた。真の終電が発動されるのは、真の修羅場だけ。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は 1 時間もかからない。松村研は 5 時間におよぶことがある。個別ゼミを行うことがある。

JASRAC

宇陀研 OB の別名。え、そんなところに就職したの、と声にならない声で迎えられた。その後、自然にこう呼ばれるようになった。

第二次常川内閣

うだまつ研のゼミ頭として最も安定した時代のこと。総理大臣の常川まおおさんを中心に、通信大臣、広報大臣、環境大臣、合宿特命大臣、近未来大臣など、一丸となってゼミ運営にあたった。

知識情報空間

宇陀研のメインテーマの一つ。知識創造を行う活動としての「場」に関わることなら何でもよい。知識について考えたい人はウェルカム！

チーム早起き

ある年、健康な研究室ライフを送るべく、有志によって結成されたチームのこと。中間発表会が近づくにつれて参加メンバーが減り、9月の夏休みが終わる頃には誰もいなくなった。その後、二度と結成されることはなかった。

D5先輩

とある宇陀研 M1 の呼び名。D5 は博士課程 5 年目のことを指すが、4 年生のとき、メーリングリストで B と D を間違え、D4 と書いてしまい、修士の先輩からも「D4 先輩」と呼ばれるようになった。その後、順調に進級し、D5 先輩になった。

とこい

和歌山県が好きすぎて、和歌山県を紹介するシステムを卒業研究にってしまった宇陀研 OG。果敢に笑いをとりにいくが、たいてい沈黙を生む結果で終わる。すべり芸人とまわりから言われるが、本人は認めようとしなない。

なおちゃんBOT @naotyán_bot

なおちゃんの発言をまとめた bot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい(とんかつを食べながら)」。日々爆笑発言が繰り返されるため、登録が追いつかない。

なっしー

某松村研 OG のこと。それまでは天使だったのに、ある日、ダークサイドに落ちてふなっしーと化してしまった。それ以来、ふなっしーを感じると、ナッシー、ナッシー、ヒャハハ！と声をあげる。

7D240

我が共同研究室。長谷川研とも共同。ソファ、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻ってきて夜を明かす人が続出する。7D240 にあるプリンタは複数の先生で共用しているので、出力を取りにくるとき、怪訝な目で見て去っていく。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4 人に L サイズ 1 枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿

夏休みの 1 週間、教室を借りて(大抵 7A208)、朝から晩まで集中して卒研等を行う会。みんなでお前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240 は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

まおる

常川まおおさんの挙動、もしくはそれに類似した行動のこと。主な意味は道に迷うこと、反対方向の電車に乗ってしまうこと、しかも到着するまでそれに気づかないことなどを指す。「あ、まおってしまった」のように使う。

洗雄

「みつお」と呼ばれるゼミ生の名前。正しく読まれたことはこれまで一度もない。ご両親も「みつお」と認識しているらしい。



コンテンツ工学研究室

コモディティ化について考えたことがありますか？石鹸やシャンプーのように広く普及し一般化した商品は、洗浄力という本来の機能では差別化が困難になることを言います。携帯電話・スマホもコモディティ化が進み、物だけでなくサービス・情報も『使い捨て消費財』になってきています。

佐藤研究室では、新たなサービスを創出する社会的な資本（ソーシャルキャピタル）の形成・変容過程を、機械学習や確率・統計などの工学的なアプローチによって解明することに取り組んでいます。他にも、学習支援・健康支援、映画や図書などの情報推薦など幅広く研究しています。

ソーシャルキャピタルの形成と変容

信頼・規範・ネットワーク



情報革命

21世紀～

情報の大量生産→知的豊かさ
ソーシャルキャピタルが拡大再生産の源
1993年 ロバート・パットナム(政治学者)
人々の協調行動を活発にする
社会的仕組み

コミュニティの形成過程の解明
参加者のモチベーション変容の解明
→ ウェブサイエンス

産業革命

18世紀～

物の大量生産→物的豊かさ
キャピタル(資本)が拡大再生産の源

農耕革命

紀元前1万年～

食料の増産→人口急増



主な研究領域

Twitter

収集済みの膨大なツイートデータを用いて、Twitterについての様々な研究がなされています。具体的な内容はユーザの属性や投稿傾向、フォロー/フォロワーネットワークの分析など多岐にわたります。

Q&Aサイト

近年広がりを見せる質問サイトですが、ユーザが望む答えを得るためにはどのような質問文が最適なのか？類似の質問を参照することで質問者はより良い答えを得ることができるのでは？という疑問からスタートした研究がされています。

調理レシピ

Cookpadより提供されたデータを使い、レシピに関する研究をすることができます。過去の例では、ユーザの習熟度に応じたレシピの推薦手法や、健康に配慮した毎日の献立の提案などが行われています。

その他

- ・映画の推薦手法
- ・学習者の姿勢分析
- ・商品レビューの評価推定
- ・SNSでのユーザ推薦手法
- ・e-learningコメントシステム
etc...

この他にも「コンテンツ工学」という枠におさまらない様々な研究がされています。

お問い合わせは pub@ce.slis.tsukuba.ac.jp まで

鈴木伸崇研究室 | NS Laboratory

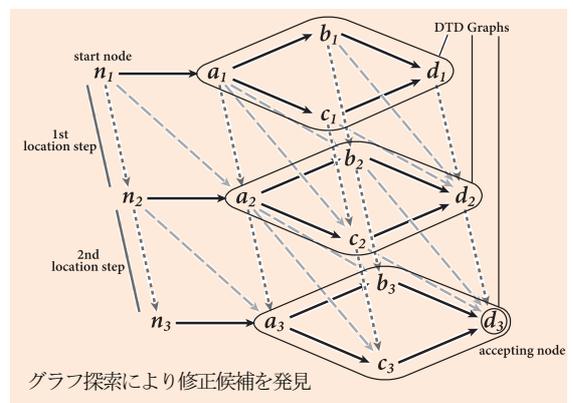
当研究室は、グラフデータやXML/HTMLなど、「構造を内包するデータ」を中心に研究を行っています。以下に主な研究テーマを示しますが、これに限定されるわけではありませんので、老若男女を問わず意欲ある方を歓迎いたします。

大規模グラフデータの探索・要約 | Search and Summarization on Large Graphs

近年、大規模なグラフデータが急速に増加しています。小規模なグラフデータを検索するのは比較的容易ですが、大規模なグラフデータは必ずしも主記憶に収まりきらないため、効率のよい処理が困難です。当研究室では、外部記憶アルゴリズムの技術を応用して、大規模グラフデータを効率良く検索できるアルゴリズムなどについて研究しています。また、大規模グラフデータの構造を要約し、概形を求めるアルゴリズムを研究しています。

XML・CSSの検証 | Validation of XML Query and CSS

「問合せ式を書いて実行してみたものの、期待した実行結果が得られなかった」ということがよくあります。当研究室では、XMLの標準的な問合せ言語XPathを対象に、スキーマに適合しないXPath式を検出したり、正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。また、スキーマで定義されているどの要素にも適用されることのない、不要なCSS規則を検出するアルゴリズムを開発しています。



XMLスキーマ進化 | XML Schema Evolution

一度作成されたデータが元の構造を保持し続けることは少なく、ユーザの要求や利用環境の変化に応じて更新されていくのが一般的です。XMLのスキーマが更新された場合、対象とするXMLデータの構造も変化するため、それまで使用されていたXPath式やXSLTを修正する必要が生じます。当研究室では、スキーマの更新によってXSLT変換が影響を受ける箇所の自動検出や、スキーマ更新に応じてXPath式を自動的に修正する手法などを開発しています。

その他 | Other Topics

上記に加えて、MathML数式の検索・分類、電子書籍(E PUB)、XPathやXSLTの分散・並列処理、HTML5によるiPadアプリの作成などを行っています。お気軽に下記までお問い合わせください。

指導教員：鈴木伸崇 <nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp>

研究室(教員)：7D204

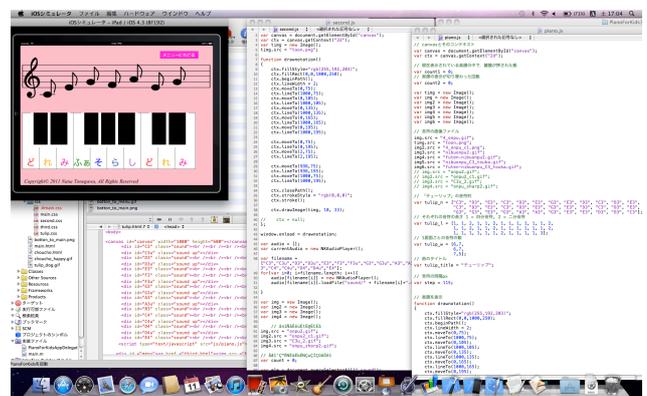
研究室(学生)：ユニオン3F学系共同研究スタジオ3

学生数：10名(大学院生5名, 学類生5名)

ゼミ：学類(週1回), 大学院(週1回)

曜日・時間は皆で相談

研究室Web：http://nslab.slis.tsukuba.ac.jp/



iPadアプリ(読譜学習)の開発画面

コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーションの支援**や、ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

2010年12月～
教員：1名
学生：4名
OB・OG：18名

自分の興味を見つける努力をしてください。

企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

(NTT, 楽天, 富士ゼロックス, きざしカンパニー, つくば市, 水戸市)

- ・つくば市との共同研究 (Wikipedia Town 筑波山) が4月25日付の常陽新聞に掲載
- ・水戸市との共同研究 (Twitter で市民の声把握) が8月6日付の日本経済新聞に掲載

教員室：7D-213, 学生研究室：7D-140

研究室 Web サイト：<http://cu.slis.tsukuba.ac.jp>

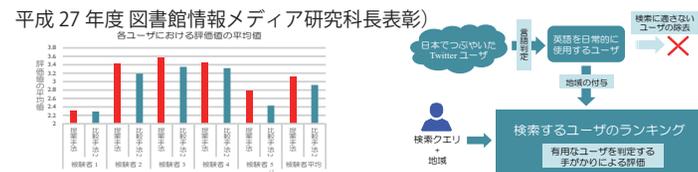


ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける、より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

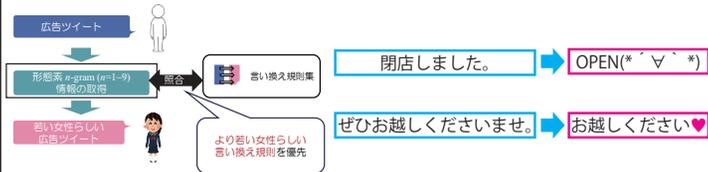
外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦

(観光情報学会誌 採録, WI2 研究会 第4回ステージ発表 採択, 平成27年度 図書館情報メディア研究科長表彰)



宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え

(情報処理学会 第78回全国大会 学生奨励賞)



感情推定に基づく顔文字推薦システムの構築

(言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞, 日本語学論説資料 掲載)

読者の感性を発信・共有するためのソーシャル付箋
(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成24年度 情報学群長表彰)

Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出

(平成25年度 情報学群長表彰)

ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して、クリエイタを検索したり既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

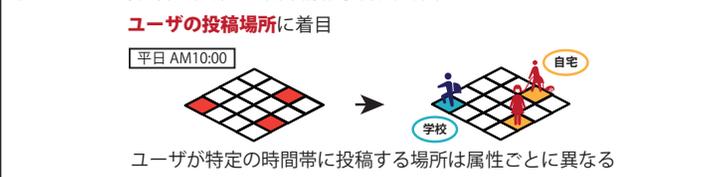
投稿型レシピサイトを横断した重複レシピの判別

(DEIM 2016 優秀インタラクティブ賞)



Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定

(ICADL 2016 採録, 平成27年度 情報学群長表彰)



閲覧者による印象を考慮したイラスト投稿者の検索

(ACM SIGIR 2013 採録)

人気レシピの内容的特徴に着目した実用的レシピの判別

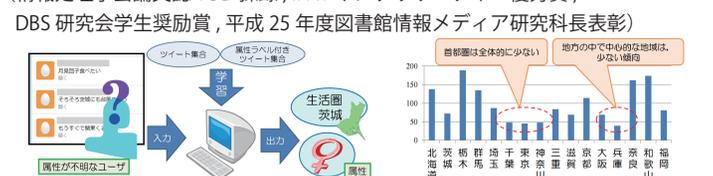
(CEA 2014 採録, Best Paper Award)

スマートソーシャルシティ

ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり、オープンデータを活用することで行政サービスの活性化を支援

半教師ありトピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定

(情報処理学会論文誌 TOD 採録, IFAT ヤングリサーチャー優秀賞, DBS 研究会学生奨励賞, 平成25年度 図書館情報メディア研究科長表彰)



地域ユーザに着目した口コミツイート収集手法の提案

(DEIM2016 学生プレゼンテーション賞)



パブリックコメント投稿者を支援するための行政文書の分割

(平成26年度 情報学群長表彰)

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- 研究室 (居室) 教員: 7D208室
学生: 7D221共同研究室
- 学生数 (2016年度): 8名 (M1: 1名, M2: 3名, D1: 1名, D2: 1名, 研究生: 2名)
- ゼミ指導: 研究室全体ゼミによる進捗報告 (隔週) と, 個人ごとの指導 (毎週) を行い, 研究を進めます。
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお勧め
 - 情報システムの力を借りて課題を解決してみたい
 - 情報検索や探索支援の際の利用者の行動に興味がある
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, より精緻に情報探索の過程を計測し, 情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では, 探索過程の記録や, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発を目指して研究しています。

電子図書館

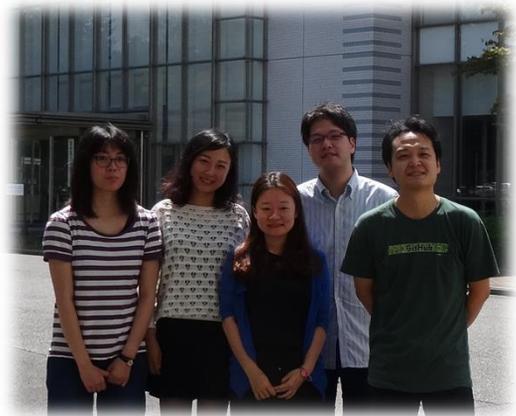
電子図書館は, 既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 情報推薦, 可視化, 利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり, 現場のニーズに基づいてサービスの分析や精緻化を行う役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web APIマッシュアップによる新しい機能の提案, デジタルアーカイブズの活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ, ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索インタフェース, 検索評価手法の開発を目指しています。



連絡先: 高久 雅生

- Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- Twitter: @tmasao

手塚研究室の紹介

手塚研究室ではデータから有益なパターンを発見し、構造化された知識を得るためのプログラムの開発を行っています。センサ技術や通信ネットワークの発展によって膨大な量の電子的なデータが蓄積されている現在、これらの手法には幅広い応用があります。具体的な研究対象として、特に画像と神経細胞の活動データ(時系列データ)を主に扱っています。

研究室では毎週、輪講やゼミを行っています。輪講では基礎的な技術に関するテキストを用いて学生が順に発表し、理解を深めています。ゼミでは各自の研究の進捗を発表してディスカッションを行い、問題の解決に向けての検討を行っています。夏休みの合宿やスポーツイベント、鍋などを通して研究室内での親睦を深めるようにもしています。データを解析する力、問題について深く考え、解決を模索する力は実社会に出ても必ず役に立つと思います。

研究室Webページ: <http://xi.kc.tsukuba.ac.jp>



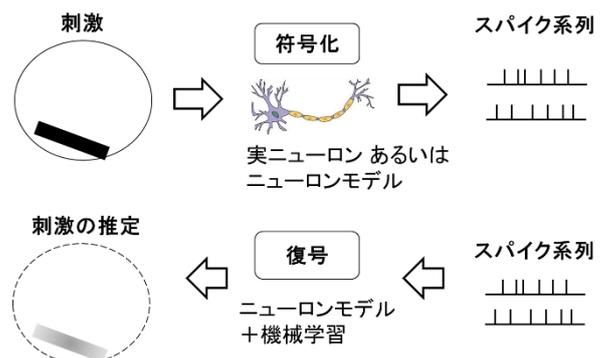
画像処理

近年注目されている深層学習 (deep learning) の手法のうち、画像処理に広く使用されている CNN (Convolutional Neural Network) を用い、画像分類や奥行き推定の研究を行っています。また、GPU を用いたパラメータ推定の高速度の研究にも取り組んでいます。



神経活動データの解析

神経細胞間ではほとんどの情報が活動電位 (スパイク) によって伝えられるとされており、脳における情報表現の理解においてスパイク系列の解析は欠かせません。スパイク系列の間に類似度や距離を定義する研究は以前から行われていますが、近年ではより幅広い用途に使用できる正定値カーネルをスパイク系列上で定義する手法が提案されています。手塚研究室ではこれまで研究されてきた単一ユニットのスパイク系列に対するカーネルではなく、多ユニットのスパイク系列 (多チャネルスパイク系列) 上のカーネルについて研究を行っています。



アーカイブズ学研究室 Archival Science Laboratory

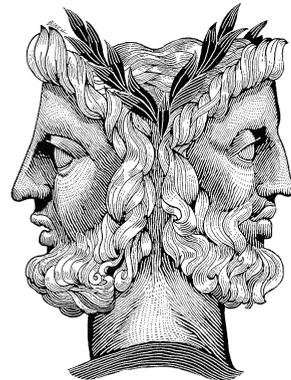
指導教官プロフィール

バルリシェフ、エドワルド (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野 (指導可能な分野):

- *アーカイブズ学理論全般、
- *各国の文書館やアーキビスト養成、
- *国家機関 (省庁) 内の記録管理、
- *保存記録の管理・利用に関わる諸問題、
- *記録媒体と情報処理、
- *保存資料 (史料) と歴史学



古代ローマの双顔神ヤヌスのように、過去と未来を同時に見詰めているアーカイブズ学

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会团体や個人の活動の証言として保存されている記録資料の総称、②上記の記録資料が保存されている機関および施設

⇒ 社会的な進化とともに変容し、多様化してしまったアーカイブズは、今日、「国家や国民の生活から生まれた過去の諸データ」として再定義されつつあります。



保存記録 (アーカイブズ) の管理および利用の様子 (イギリス国立公文書館、ロンドン)

今日の社会が抱えている諸課題と対応策



イギリス国立公文書館の前

今日の情報時代において、アーカイブズは再び社会の注目を浴びています。公文書やその他の記録資料の電子化、情報技術の普及等がアーカイブズの「通俗化」を促成し、社会科学の在り方を変えていると同時に、様々な問題を引き起こしています。

特に、情報資源の多様化およびその断片化は、記録資料の利用を困難にしているため、情報の分類整理やその管理事業が次第に重要性を増しています。国際的・地域的にみれば、アーカイブズの管理状態には、電子化の度合い、アクセス基準などに顕著に表れているような格差があり、それも情報資源の効率的な使用を妨げています。

この状況下において、日本の国内や国外における記録管理・保存に関する歴史と現状を学ぶことにより、「国民の記憶」としても位置づけられる記録管理の水準向上を目指すことは大きな社会的な意義が認められる。

研究・指導方式

- 国際化の時代が求められる幅広い知識を目指しながら、比較社会学的な方法を頼りにして、学生の関心・達成目標に合った個別的な研究の指導を行っています。
- 隔週、ゼミ方式の授業 (2 時間程度) を行うとともに、個別で相談できる時間を設けます。

人類が今まで作り出した諸記録の遺産に関心を持ち、過去、現在および未来における「文書」の在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!

緑川研究室

私の研究室では情報組織化論，特に，分類の研究を行っています。分類とは，同じ性質をもつものどうしを集めること，あるいは，異なる性質をもつものどうしを分けることです。分類に関する研究には，分類するという行為に関わる研究と，分類されてできるものに関わる研究があります。

分類という行為に関する研究として，たとえば，弓道のわざを獲得する過程におけるカテゴリの使用という卒業研究がありました。弓を引くときの手順を足踏み，胴造り，弓構え，打起し，引分け，会，離れ，残身と8つに分け，さらに足踏みを，的の中心を見定める，無理な力を入れないように注意する，などの行為に分けます。これらの行為を「見る」，「入れる」，「反らす」などのカテゴリに対応づけることによって，わざを獲得する過程でどのような意識が働いているのか（どのようなカテゴリの行為を選択しているのか）を考察しています。

分類されてできるものに関する研究はいろいろありますが，たとえば，本の推薦システムにおけるカテゴリの有効性に関する修士論文がありました。アマゾンのデータを利用して，アマゾンの推薦本を被験者にそのまま推薦する場合とカテゴリを考慮して推薦する場合との比較，また，後者において考慮したカテゴリを利用者に提示する場合と提示しない場合の比較を行いました。この研究では，分類されてできるカテゴリが，本の推薦にどのような効果を及ぼしているのかを考察しています。

分類されてできるものの代表として分類表がありますが，分類表に関する研究も行われています。落語の検索システムに役立てるために，落語の噺の種類とオチの分類表を作成した卒業論文がありました。噺の種類は，「扱う世界（野外，家の中，寺，死後の世界など）」，「登場人物の身分・職業（番頭，武家，丁稚，医者など）」，「登場人物の性格・性癖（酒呑，粗忽，強情など）」，「噺の主題（金，道楽，人情，旅など）」などいくつかの観点から分類表を作成しています。また，オチについては，「間抜けオチ」，「地口オチ」，「途端オチ」，「オチなし」などの項目からなる分類表を作成しています。

私自身は図書館分類法の研究を行っています。特に最近図書館分類法の歴史が主な研究テーマです。一方，図書館分類法研究の新しい動向としてオントロジに関連する話題があります。シソーラスなどに適用できるように開発された一種のオントロジ記述言語 **SKOS** を用いて図書館分類法を表現する研究を，現在，博士論文で行っている人がいます。図書館分類法を **SKOS** で表現することにより，**Linked Data** として **Web** 上で活用しやすくなります。

以上のように，分類の研究はとても幅が広いものです。

受入学生数は3人までで，今年度は2人です。原則として週1回ゼミを行います。調べてきたことについて，私が助言をしたり，みんなで意見を出しあったりします。3年生の12月に所属が決まったら，まず研究テーマを絞るために関連研究の文献読みを行います。3年の春休みから4年の夏休み前までは文献を読みつつ，調査の設計を行い，可能であれば一部調査を実行します。夏休みに本格的な調査を行い，10月の中間発表でその結果を報告します。その後，調査結果をもとに考察を行い，書けるところから論文を執筆していき，12月に提出します。

若林研究室

指導教員: 若林啓

場所: 7D230

研究室 HP: <http://wkblab.github.io>

2016 年度
メンバー構成

M2: 3 名

M1: 3 名

B4: 2 名

計 8 名

研究テーマ

私たちの身の回りには、膨大な量の情報が溢れています。今後、社会はどんどん複雑になり、私たちが仕事として処理しなければならない情報はますます増加していくでしょう。私たちは情報処理に忙殺される危機に直面しています。

若林研究室では、大量のデータから本質的な知識を抽出する機械学習手法と、これをベースにした人工知能の研究を行っています。子どもは、周囲の人が話す言葉を手がかりに自力でことばを学習していきますが、この過程では統計学習が行われていると言われていています。統計的機械学習手法を発展させ、文章の意味をより深いレベルで認識させることで、高度な知識抽出や対話システムなどの実現を目指すことが本研究室のテーマです。

研究をすすめる上で望ましい条件

- 1 実装能力がある。あるいは実装能力を身につけたいという熱意がある
- 2 必要なら数式にも立ち向かっていける

研究室の見どころ

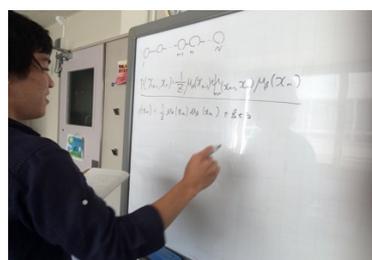
- 1 アットホームな雰囲気です作業ができます！
- 2 研究環境が充実しており、PC(Mac Book)の貸し出し有り！
- 3 機械学習に触れることができる！
- 4 必ず誰かが研究室にいる！（一人じゃない）

活動内容

- 1 週一回の個別ゼミ(進捗報告など)
- 2 自主的な輪講
- 3 他の研究室との合同合宿
- 4 新メンバー歓迎会



<http://wkblab.github.io>



輪講の様子



手塚研と合同合宿

情報法研究室

1 研究室の概要

石井研究室では、情報に関わる様々な法的問題を研究しています。日本には「情報法」という法律はありませんが、個人情報保護法や著作権法のような、耳にすることの多い法律から、電気通信事業法、景品表示法、プロバイダ責任制限法、特定商取引法、リベンジポルノ禁止法のような、あまり馴染みのない法律まで、民法・刑事法・行政法の多岐にわたる法律が情報法のカテゴリに含まれます。最近では、マイナンバー法が話題になっていますが、この法律も情報法の1つです。また、法学研究を行う上では、実務を動かす判例の動向を研究することが非常に重要です。

情報技術が高度に発展する中、情報に関わる法的問題も様々な場面で生じています。法学は地味な研究分野ですが、石井研究室では、皆さんに好きなテーマを選んで頂き、自立心を持って研究に取り組んでもらっています。

2 活動

1) 指導体制等

石井研究室では、学期中は1週間に1度のゼミを行っていますが、指導学生の就職活動の都合などに応じて、個別指導も随時行っています。卒研発表会の後は飲み会も行っています。法律系のゼミですので、公務員や教員志望の学生が比較的多いと思われがちですが、民間企業に就職する学生も多く在籍しています。

卒研生の皆さんには、例年、3月頃までに研究テーマを確定し、着手発表までに研究背景、目的、全体構成を整理し、中間発表までにできる限り執筆を進め、11月頃から考察の章を検討してもらっています。法律系の研究は執筆分量が多くなりがちですので、遅くとも12月からは考察の章を執筆できるように進める必要があります。専門家の方に意見を聞く場合もありますが、基本的には文献調査で研究を進めていきます。ゼミの人数は、少ない年で2名、多い年で5名が在籍しており、平均すると3名程度です。ゼミに出席できない場合は、メールでも随時指導を行っています。

2) 居室

- ・石井：7D509
- ・共同研究室：7D540(2016年9月1日現在)

3) 卒業研究テーマ(平成25年度以降)

- ・平成27年度
 - サイバー犯罪に関する刑事法的考察
 - インターネットにおける実名制導入の是非
 - インターネットにおける事業者情報の名誉棄損に関する考察
- ・平成26年度
 - 図書資料の規制と図書館の自由—プライバシー権侵害を中心に—
 - 日本における文化的活動の保護と制限をめぐる考察—文字・活字文化を中心に—インターネット上の個人情報の削除請求権パブリシティ権の法的性質に関する考察
- ・平成25年
 - 違法・有害情報とインターネット上の青少年保護秘密保全法の意義と課題

3 連絡先

kaoriish@slis.tsukuba.ac.jp

HITS

逸村研究室

LAB

Episode XIV

THE OPEN LABORATORY

10/13 ~ @7D340

研究分野

大学図書館、学術情報流通、情報探索行動、オープンアクセスを研究テーマにしています。他にも学校図書館や公共図書館、図書館建築や日本研究支援を扱っている学生がいます。

研究環境

逸村研究室は共同研究室7D340に所在しています。ゼミ生に対してそれぞれ席とPC (Win xor Mac) が与えられます。他にも、プリンターやスキャナー、おやつが完備してあります。

所属しているゼミ生

B4が5人、M1が5人、M2が2人、Dが2人おり、逸村先生に加えて先輩方からの論文作成やプレゼンテーションのアドバイスを受けられます。さらに、社会人院生や研究生もいます。

ゼミについて

週に1回程度、7D342において学類生と院生が合同でゼミを行います。研究発表会や大学院入試の直前はゼミ開催の頻度が増えます。また春と夏に他大学と合同で行うゼミ合宿があります。

Contact: senomoto@klis.tsukuba.ac.jp

年間スケジュール(一例)

2016年10月：オープンラボ
 2016年12月：研究室仮配属
 2017年1~2月：研究テーマの構想
 2017年3月：春ゼミ合宿@初島
 2017年4~5月：着手発表の準備
 2017年6月：着手発表会
 2017年7~8月：中間発表の準備
 2017年9月：夏ゼミ合宿@蓼科
 2017年10~11月：卒業論文執筆
 2017年12月：卒業論文提出・最終発表の準備
 2018年1月：最終発表会
 2018年3月：春ゼミ合宿・卒業式

図書館・公共経営研究室

【教員】小泉公乃 【所属】筑波大学図書館情報メディア系

【オフィス】春日校舎7D310 【メール】koizumi@slis.tsukuba.ac.jp

研究・学習領域

公共圏

図書館における公共圏とは何か

パブリックガバナンス (公共経営)

地域コミュニティにおいて、
図書館はどのような意義があるのか

図書館経営

図書館に固有の経営・サービスをどのように未来の地域のイノベーションに活かすのか

公共・大学図書館と地域コミュニティについて
本気で研究・学習したい人たちのための研究室

～現役の図書館員の方々もゼミに参加し研究に励んでいます～

- ・配属を希望する学生は必ず事前に連絡し、個人面談を受けてください
- ・ゼミの内容はゼミ生の希望も考慮しますが、基本的には卒業研究の前に、何らかのグループ研究をおこなってもらいます（ゼミ合宿あり）

メディア・インタラクション研究室

今日、私たちはメディアを通じて映像やコミュニケーションを楽しんだり、多くの有用な情報を得たりしています。一方で、有害な映像コンテンツや情報に触れたり、トラブルにあう機会が増えたりするなどの危険もあります。本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。

このような研究を通して、メディアの悪影響を避け、有効に利用していくためには？、より快適なメディア環境を整えていくためには？などについて考えていきます。

■ 教員： 鈴木 佳苗

■ 学生： 学類生 3 名（情報資源経営主専攻）・大学院生 4 名

■ 研究テーマ： 「読書やインターネットなどのメディア利用の影響」「メディア教育の実践とその評価」「学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価」「児童図書館サービスの現状と課題」などがあります。

■ 研究室 Q & A （A.：学生）

Q1. ゼミについて

A. 週に 1 回ほどのペースでゼミがあります。ゼミの雰囲気はなごやかです。

Q2. 研究のスケジュールについて

A. 12 月からしばらくの間は、自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学びます。6 月の着手発表会までに目的と方法をできるだけ考えて、その後、調査や実験を始めます。11 月頃から論文の執筆開始です。

Q3. 研究室について

A. 研究室には各メンバーが使用できる PC があります。インターネットも問題なく使えます。大きな机もあるので、研究の議論もできます。



ある日の研究室 (2016)

Q4. 卒業研究について

A. 読書にかかわる地域の取り組みや図書館のサービスについて調べています。ある取り組みの効果を明らかにするにはどのような方法を用いればよいのか、どのような分析をしたら何が分かるのか、授業で学んだことやゼミで読んだ文献を参考に検討しています。

A. 外部の機関と連携して研究を進めています。連携を通して、早く、分かりやすく、正確に必要な情報を伝えることの重要性を実感することが多くあります。研究としての新しい発見だけでなく、このように、毎日の生活に活かせる経験もできていると思います。

■ 研究紹介（参考 URL）：

<https://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/forum/forum80/04.pdf>

Patrick LO 研究室

研究分野・最近の研究

香港から来た Patrick LO 先生の研究分野は比較図書館学である。最近の研究テーマは芸術専門図書館、音楽図書館など。ゼミ生は言語的背景があり、みんな多文化好きで、国際的な研究に興味がある学生だ。

最近のゼミ生の研究テーマ

1. インドネシアの刑務所図書館研究
2. 電子社会における図書館利用教育の重要性
3. 市立図書館の社会や文化機能評価-香港、台湾、日本と中国の比較研究-
4. 大学図書館カフェの社会、教育と娯楽の機能評価

I have recently published 2 new books:

(1) *Conversations with the World's Leading Orchestra and Opera Librarians*. Lanham, Maryland: Rowman & Littlefield (2016).

(2) *Preserving Local Documentary Heritage: Conversations with Special Library Managers and Archivists in Hong Kong*. Hong Kong: City University of Hong Kong Press (2015).

My student Qianxiu LIU (from Mainland China) - paper based on her final master's thesis - "Measuring the Importance of Library User Education: A Comparative Study between Fudan University and the National Taiwan Normal University" was accepted for publication by SSCI (Peer-reviewed journal), *The Journal of Academic Librarianship*, with impact factor (1.150).

Toycie DENG (experience as research student under Dr. LO's supervision):

私は去年の10月に中国から筑波大学に留学しました。当初は筑波大学図書館情報メディアの研究生として勉強していました。指導教官はPatrick先生です。

Patrick先生のご指導の下での約1年間にわたる研究生生活の中で、図書館情報学、特に図書館学にとっても興味を持ちました。Patrick先生は図書館学の比較研究を多く行っているのので、先生の影響を受け、私も比較研究に対して興味を持つようになったのです。

今、私は図書館カフェのことを研究しています。カフェと言うと、結構幅広い研究範囲ですよね。Patrick先生のアドバイスを受け、図書館カフェの役割について深く研究していきたいです。図書館カフェの役割については、教育面、娯楽面、社会的側面から明らかにしようと思います。最初の段階は文献検索ですが、図書館カフェに関する日本語の文書、論文はとても少ないですし、欧米にもこの研究に関するものは多くはないです。文献を読み、この研究にも少し明るくなりました。次の段階はデータ収集です。この2つの段階の勉強を通じて、この課題に対する理解も深まりました。特に、図書館空間構築とサービスにおいて、カフェは新しい存在なのだという発見を得ました。

そして、Patrick先生の研究室は今留学生の2人が在籍し、毎週ゼミ討論を行っています。内容は自分の研究内容に関することです。しかし、他の研究室と違い、Patrick先生の研究室は教室や研究室で行うわけではなく、好きなレストランでリラックスした雰囲気で行います。



原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、図書館や読み(リテラシー)の問題を社会的な文脈で考えることに興味がある学生が集まっています。ハリ・ポッターのシリーズはなぜ多くの子どもに読まれたのか、ネット上の書評サイトや読書ブログはどのような図書を紹介しているのか、日本の絵本はどのように発展してきたのか、大正時代の女学生はなぜ女性雑誌を好んで読んだのかなどです。

その他にも例えば、最近ビジネスパーソン向けに読書を勧める本が多く出版され、ビジネス関係の読書会も盛んです(日経ビジネスオンライン)が、こういった社会状況に対して、図書館は何ができるかを考えることも必要だと思います。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるんですか？

研究方法は質的・量的な分析、明らかにしたいテーマによって何がふさわしいかを考えながら進めています。テキストを使って語彙の出現頻度を分析したり、インタビュー調査をしたりもします。ただそのさい、データに基づいた客観的な研究とは何かを考えながら進めていきます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察に陥ったことはありませんか。研究ではそうならないように注意しなくてはなりません。研究方法が多様であるせいか、研究室には高校のときの文系、理系を問わず、どちらの学生もこれまで所属しています。

研究指導は研究室で週1回のペースで行います。全員で集まって研究報告をしたり、ディベートをしたり、個人指導をすることもあります。研究テーマを相談しながら決めたり、その方法をみんなで考えたり、進捗状況を報告したり、発表会前にはみんなでプレゼンの練習もします。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあり、その経験からドイツに出張することも何度かありました。ドイツの図書館は日本とはかなり異なっています。そのことに興味がある学生もいましたら相談して下さい。



▲原研究室の平成27年度ゼミ生(5名)卒業式にて！

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。毎年《楽しい企画》もあります。毎年ゼミ旅行(湯西川温泉など)に行き、バーベキューや花見をした年もあります。ところで、《ゼミ生の就職先》ですが、国立大学法人等職員(図書、事務)、独立行政法人の職員、都道府県・市町村の地方公務員(図書館勤務を含む)の他、公益法人や企業の人事やSEなど、先輩は北海道から九州まで幅広い地域で仕事をしています。研究室を訪ねて来てくれる先輩もいるので話を聞くことができます。ちなみに、現在(平成28年度)の4年生は5名です。

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、一緒に良いテーマに洗練させていきます。自分が興味のあることが良いです。同じ経験をしてきた先輩も待っています。

興味を持ったら気軽に研究室訪問期間中に相談に来てみて下さい！研究室訪問を希望するメールを送ってもらえれば、面談のための時間をお返します。

◆ゼミ生による研究室紹介

— 気兼ねなく発言できる雰囲気 —

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなくなってしまうので、週1でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができました。し、みんなで話した内容は研究に関わりたくないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと口を過ぎる言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がり、実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしました。し、研究室のメンバーの誕生日にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言う先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思えます。

(平成27年度卒 O G 武田未来さん)

学校図書館に関する研究室：学類から博士後期課程まで一貫した研究体制

平久江研究室（研究室 404） hirakue@slis.tsukuba.ac.jp

研究の概要

本研究室の研究テーマである学校図書館は、身近な存在であっても、あまり研究対象とは認識されない、そんな研究領域です。図書館としてみると、施設・設備の規模から、その研究領域の間口は決して広く感じられないと思いますが、これを学習環境や教育機関として捉え直したとき、多くの学問分野と繋がり様々な研究アプローチが見えてきます。そうした学際的な学問領域が学校図書館の研究領域です。

例えば、関連する研究領域としては、教育学、情報学、経営学、社会学等が挙げられます。

主な研究のアプローチと特徴

一貫して学校図書館の研究を行う国内唯一の研究室内で、本学類の中でも大変ユニークな研究領域



卒業研究の進め方とゼミ生数

- | | | |
|---|----------|--------------------------------------|
| [今年度の予定] | [受入予定人数] | 3名程度 |
| ・12月～3月上旬
基礎的文献を読んだり、レジュメの作成法、発表方法、研究テーマの絞り込みをします。
・はじめは3年生だけで実施し、後半は4年生や院生と一緒にゼミを行います。 | [ゼミ生数] | ・学類生 3名
・博士前期学生 5名
・博士後期学生 12名 |
| ・4月頃～
卒業研究の本格的に開始し、研究テーマを決定し着手します。 | [受け入れ方法] | ・事前にメールで連絡し、所定の面談用の用紙を提出し面談をします。 |

主な研究領域

- ・図書館情報学と教育学等の学際的な研究領域
⇒ 学校図書館に関する研究
KW: 利用指導, 管理運営, 外国研究, 連携協力等

学校教育において学校図書館をどのように効果的・効率的に経営し活用していくかについての研究

学校図書館(学習情報センター)における学習支援等のサービス提供

学校図書館と社会教育機関との連携・協力(公共図書館, 博物館, 文書館等)

学校図書館における情報リテラシー教育(言語活動の充実)

国内・国外の学校図書館の運営と専門職員の養成

卒業研究と主な進路

- | | |
|--|---|
| [最近の卒業研究] | [学類生の主な進路] |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における学校図書館オリエンションの在り方 ・授業支援を可能とする学校図書館資料の構築 ・神奈川県における公共図書館の私立高等学校に対する連携協力 ・中学生の読書行動にあたるメディア・ミックスの影響 ・兼任司書教諭における負担軽減措置の現状と課題 ・全校一斉読書における学級文庫の在り方 ・方学校図書館の貸出履歴に対する教員: 図書館担当者 ・図書委員の意識の比較 | <ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学博士前期 ・栃木県庁(行政職) ・大阪府立図書館(司書職) ・ゆうちょ銀行(総合職) ・武蔵野生涯学習振興事業団(行政職) ・国際女性教育会館(司書) ・九州大学図書館(司書) ・航空集配サービス株式会社 ・川崎市学校図書館アドバイザー |

学校図書館ミニ知識

- ・1990年代後半から、学校図書館の現代化が進められてきました。1997年に学校図書館法が改正され、司書教諭の配置が進められてきました。そして、2014年には、学校図書館法が改正され学校司書が法制化されました。また次期の学習指導要領の改正によりアクティブラーニングが導入されます。
- ・学校図書館の研究は今後重要性がさらに高まるものと考えられます。



共同研究室7A430室でのゼミ風景

研究分野：漢籍古典

1. 研究室の概要

松本（浩）研究室では、漢籍の古典に関わる様々な問題に取り組んでいます。松本自身の専門は道教という中国の民族宗教の研究ですが、ここでは中国の古典籍に関わる図書館情報学的な研究を進めています。例えば中国・日本で出版された漢籍古典の分類や目録の方法、あるいは古典のテキストのデータベース化やそれに関わる様々な問題、日本の現在の出版物における中国古典の引用などの問題などを取り上げています。データベース化に関しては、以前宇陀先生・杉本先生とともに、『道法會元』という護符や呪文とその使い方などを記した、道教文献のデータベース化に取り組みましたが、そのデータベースの計量分析や検索の際の言葉の統制などを進めました。古典の引用に関しては、『孫子』という戦略についての書物が現代のビジネス書に、どの部分がどのような目的で引用されていたかをたどったりしました。

中国の古典は、日本人にとっての古典ともなっていることは周知のことと思いますが、その影響も広い分野に及んでいます。古典ばかりでなく、民俗や習慣などでも深い関係があって、一見似ているのに内容はかなり異なっていることなども多くあります。皆さんには、「こんなことに興味があるんだけど」というテーマをもって来てもらい、相談の上で研究テーマを決めています。

2. 活動

1) 指導体制

研究室では、2週間に1度ゼミを行って、その時には2週間の間に自分が進めた作業について報告してもらい、問題点について議論します。ゼミのない週もその時間は空けてありますので、何か問題があったらその時間に来てもらって対応することにしてはいますが、その時間に限られることはかえって少ないです。

2) 居室

- ・研究室：7D301
- ・共同研究室：7D522（原先生と合同の研究室）

3) 卒業研究テーマ

平成28年度

- ・中国料理の分類
- ・漢籍古典目録の典拠コントロール
- ・中国古典小説の分類の問題点

それ以前

- ・唐宋代の類書の構成
- ・戦後日本における曹操のイメージ形成とその変遷

3. 連絡先

matsuko@slis.tsukuba.ac.jp

著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

現在のメンバー（2016年度）：博士前期…1名 学類…3名

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上問題となる論点を取り上げてかまいません。

例えば・・・2016年度のゼミ生の研究テーマ

- ・写真の著作物について（写真をもとに絵画を作成する場合などを中心に）
- ・日本版フェアユースについて
- ・応用美術について（椅子の著作物性が争われた事件などを中心に）
- ・同一性保持権の濫用について

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：夏休み前まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらおう（目安：夏休み以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論 A」、「情報社会と法制度」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論 A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

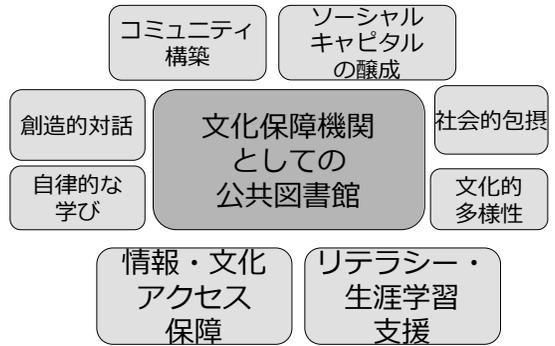
詳しくは・・・ 研究室決めについて、卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールで連絡してください。

研究室紹介 吉田右子 (研究室116)
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



BIBLIOTEKET Renemestervej, København Danmark

図書館研究への視座



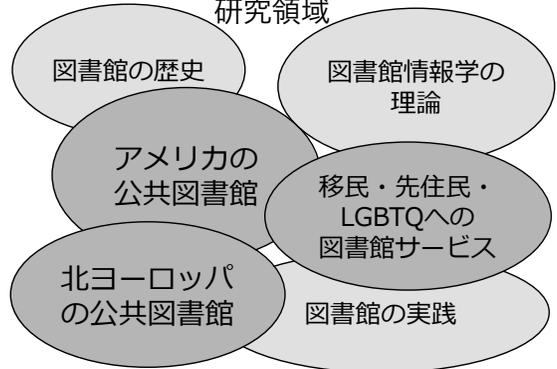
研究テーマと研究方法

- (1) 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究 (図書館の実践を調査対象にします)
- (2) 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究 (文献を使った地道な研究です)



Hovedbiblioteket, Aarhus Danmark

研究領域



研究室配属から卒研提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討します
2月	先行研究の調査【ミニ発表会】
3月	研究テーマの確定【春休み・ゼミはお休み】
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月	本調査
8月	本調査【夏休み・ゼミはお休み】
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

卒業研究と進路

- 【卒業研究のテーマ】
- ・アメリカ・カナダの公共図書館におけるセクシュアルマイノリティに対するサービス
 - ・北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス
 - ・オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービス
 - ・東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
 - ・アメリカにおける公共図書館と博物館の連携生涯学習プログラムについて
- 【主な就職先】
- ・横浜市立図書館・福島県立図書館・成田市立図書館・新潟市図書館
 - ・名古屋大学・長崎大学・東北大学・東京芸術大学
 - ・東京消防庁・下仁田町森林組合・小金井市



Hovedbiblioteket, Drammen Norge

mILK
知識情報・図書館学類誌

Extra
特別号
2016.10

研究室紹介号

Credit

- 発行者 歳森敦(知識情報・図書館学類長)
- 発行日 2016年10月1日
- 編集部 彼島瑞生 星穂波 盛野友海
- 執筆協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方